

発見！新しい学び

①プログラミング教育

専門職育成以外にも 多彩な教育メリット

2005年の調査で、子どもたちが学校で学ぶ時間は、起きている時間の2割弱との結果が出ました。校外で過ごす時間の方が長いということで、学校の内と外での学びをうまく結び付けることが大切だと考えられています。

日本では来年度から小学5年の算数などにプログラミング教育が導入されますが、海外では英国やオーストラリアなどで数年前から必修化されています。学校外では、国内でもすでに教室や無料のオンラインサービスなどが盛況です。

プログラミング教育の目的は、プログラマーの育成だけではありません。特に注目されているのが、高次認知能力、すなわち論理的な思考力や想像力といった、教科を問わず役立つスキルの育成です。

建設的な試行錯誤

思考力育成に必要

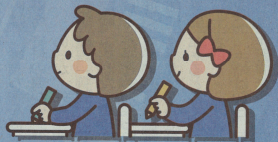
ただプログラミングを学べば「自然と賢くなる」「いつの間にか論理的な思考が身に付く」わけではありませぬ。

近年、子どもの論理的な思考力や想像力を養う「新しい学び」に注目が集まっています。2020年度に必修化されるプログラミング教育もその一つ。小学校での教育を支援する静岡大学情報学部の遠山紗矢香助教がこのほど、同大学でプログラミング教育の目的や、保護者の支え方などを語りました。その模様を紹介します。

〈企画・制作〉静岡新聞社地域ビジネス推進局



静岡大学情報学部
遠山紗矢香 助教



プログラミングで解決できる課題や問い、想像力を発揮する場面があること、対話を通じて子どもたちが答えを導きだせること、さらなる疑問や気づきを見つけられることが必要とされています。

仮説を立てて実行する→結果を見て、どうすれば正しく動くかを話し合う→新しい仮説を試す、という建設的な試行錯誤が大切です。プログラミングはすぐ結果が分かり、何回でも試せるのが特徴ですから、このサイクルをつくるのにぴったりのツールの一つと言えます。

プログラミングで論理的な思考力を身に付けるためには、紙と鉛筆より強力な学習のツールとして活用できることが欠かせません。無料のイベントやサービスがたくさんありますので、保護者がお子さんの興味・関心に合わせて、後押しすることも必要だと思います。

